

構想の実現状況等（概要） ※得られたアウトカムを含む構想の実現の観点から記載すること【1 ページ】

【Ⅰ. 事業全体の取組について】

構想の実現状況：学長がトップの「グローバル・イニシアティブ推進本部会議」を設置、事業目標を達成。

1. 主要な人材育成の取り組み 「グローバル・アジア・コミュニティに貢献する多文化協働人材の育成」
[高度人材]（従来にないレベルの教育課程を構築）

- ・アメリカン大学と国際関係学部ジョイント・ディグリー・プログラム（AU-RU JDP）開設
 - ・オーストラリア国立大学とグローバル教養学部100名規模デュアル・ディグリー（ANU-RU DUDP）開設
 - ・キャンパスアジア 日中韓の学生が3か国を巡回留学（文学部）／3期連続採択、2期連続S評価
- [多文化協働人材]（アジアを中心にプログラムを強化拡充。SGUにより各部門単位でプログラムを構築）
- ・理系：各学部・研究科単位で多様な理系海外インターンシップ・PBL等を多数開設。
 - ・文系：全学共通＋各学部単位のフィールドワーク、PBL、インターンシップ等多数開設。
 - ・交換留学以外の海外留学等プログラム：104（2013）→179（2023）へ増加（内、アジア圏88）
 - ・協定に基づく単位取得目的の日本人学部学生派遣：2,141人（2023）／目標2,100人
 - ・学部学生の英語力目標（CEFR・B1）到達：17,774人（2023）／目標16,407人

2. 人材育成を支える主な取り組み

- ・英語による全学共通教養科目B群「異文化交流科目区分」新設
全学共通教養ゼミ科目「Liberal Arts Seminar」を3キャンパス・オンライン開講（英語・第2外国語）
- ・グローバルコモンズを3キャンパスで開設、80,000名超の利用、173の企画に3,774名の学生が参加（2023）
- ・学修や生活のスキル（タスク管理、ストレスマネジメント、ノートテイクなど）を支援する「Student Success Program」を日英二言語で開設。生活基盤確立を支援する留学生支援コーディネーターを配置。
- ・本学予算による海外留学チャレンジ奨学金の創設（2017年度から、上限3.55億円）
- ・海外拠点の拡充 3拠点→7拠点 ・国際混住寮の増設（3棟増）247室→805室
- ・国際バカロレア・評価ルーブリック導入、オンライン化等→留学生志願者5.2倍増、他大学への横展開

3. 基盤整備

[研究高度化] RARA学生フェロー制度（研究費年最大34万円支給）、16名の学生が16の国際学会等で発表
日本初の英文に特化した学術出版プラットフォーム（University Press of Ritsumeikan）

[女性研究者支援] 女性教員に限定した前倒し教員任用、ライフイベント研究支援員制度など

4. アジア・リテラシー研究・確立・発信

- ・アジア・日本研究所を設置、「共生」「共創」「協働」の研究領域で20件のプロジェクトを推進
- ・大連理工大学国際情報ソフトウェア学部の設置、情報理工学部への3年次転入（40人/年）
- ・国際協力事業 ベトナム、東ティモールなど2014年度から2023年度まで各年通算で計73件

5. SGU事業の横展開

- ・大学の国際化促進フォーラムに加盟し、AU-RU JDP開設までのノウハウを発信・共有
- ・事務局幹事校として、大学の国際化促進フォーラム自走化後の法人化計画を立案

【Ⅱ. 事業期間での大学の成長（アウトカムとの繋がり）】

1. 多数の部門で国際化の取組を開発・運営することが可能となり、プログラム等が飛躍的に増加した。

例) 留学プログラム数	2013年度	2023年度
全学留学P	32	62(2か月以上20)
学部等	72	117(2か月以上49)

2. 他大学では実現できていないAU-RU JDP、100名規模のANU-RU DUDPの開発・運営や相手校との協議を通じて、国際事業開発力を一段と高め、教務制度や教職員の国際通用性を一段と高めた。

3. 英語コース・科目増、留学生増、英語コース学生増により、グローバルキャンパスへ変化した。

- ・留学生数 2014：1,537人→2024：3,781人/目標2,850人（2.45倍増、国内3位、西日本1位）
- ・留学生入試志願者数 2014：429人→2023：2,217名（5.2倍増）
- ・英語による科目数 2014：678科目→2023：1,305科目/目標1,145科目（1.93倍増）
- ・英語コース在籍者数 2014：395人→2023：1,445人/目標1,000人（3.66倍増）

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

【Ⅰ. 事業全般について】

1. アメリカン大学と国際関係学部のジョイント・ディグリー・プログラム（AU-RU JDP）開設
 - ・4月/9月入学、徹底した英語学習、全授業英語ベース、2年間のAU留学などを組み合わせ、両大学連名の学位を取得する入学定員25名の新たな国際連携学科を2018年度に開設した。
 - ・入試から卒業までアメリカン大学と共同で運営しており、学部運営の国際化・高度化が進展した。
 - ・高いAU科目履修基準（TOEFL iBT®テスト85点以上）により、海外高等教育機関の卒業生、首都圏のインターナショナルスクール出身者などの新たな出願者層の確保につながった。また、アメリカン大学から出願者の増加により米国籍の留学生数は第3位となり、留学生構成国・地域が変化した。
 - ・JDP生が両大学での4年間で計画的に学ぶために、各学生に担当のアカデミック・アドバイザーを配置し、1対1の面談を実施し、留学後も面談内容を両大学で共有し切れ目のない支援を行っている。
 - ・学士課程で国内唯一のJDPを運営する大学として、大学の国際化促進フォーラムのシンポジウムや大学間懇談会等を通じて他大学や高校に共有・発信し、制度理解と普及に努める活動を行ってきた。
2. オーストラリア国立大学とグローバル教養学部の100名規模デュアル・ディグリー（ANU-RU DUDP）
 - ・4月/9月入学、徹底した英語学習、全授業英語ベース、ANU留学、本学でのANU科目開設・履修などを組み合わせ、両大学の学位を取得する教育課程として、2019年度、入学定員100名の新学部を開設した。
 - ・ANU教員が本学キャンパスに常駐し、学生サポートおよびANU授業を担当している。
 - ・ANU標準の教務制度との整合について協議を重ね、全授業25名以下、ライティング必修化、GRADE APPEALSなど課程運営や教務制度などについても国際通用性を高める取り組みを行っている。
 - ・高学費、高いANU科目履修基準（TOEFL iBT®テスト80点以上）のため当初は定員充足できなかったが、3年目以降、ほぼ定員を充足できている。時期的にコロナが直撃したが、1年半（4月/9月/4月入学）で56名の両大学の学位を取得した修了生を輩出している。
3. 大学の国際化促進フォーラム事務局幹事校としての貢献
 - ・事務局幹事校として同フォーラムの運営の一端を担うとともに、SGU事業終了後の自走化案（同フォーラムの法人化）を検討、法人化計画の提示、取りまとめの中核を担っている。
4. 全学推進組織の設置、全学横断的かつ迅速な判断が可能なガバナンスを構築
 - ・学長、全学部長、主要役職者、理事長など法人役職者で構成されたグローバル・イニシアティブ推進本部会議を設置し、学長の強いリーダーシップの下、全ての方針を迅速に判断できる体制を構築、SGUを推進。

【Ⅱ. コロナ禍への対応について】

（留学生の受け入れ）

約600の全教室にカメラ・スピーカーシステムを整備、大学全体でZoomおよび授業動画視聴用のストリーミング配信システムを導入、全授業をオンライン、オンデマンド、ハイブリッド対応可能として入国できない留学生の受講に対応し、加えて導入したクラウド・カスタマーサポートシステム等により留学生支援・情報提供を行い、退学者、入学辞退者を出さないようにした結果、志願者・入学者を減少させなかった。

	英語基準入試志願者数	留学生入試志願者数	留学生入学者数
2019(コロナ前)	632	1,670	660
2020(コロナ1年目)	627	1,744	692
2021(コロナ2年目)	814	1,507	702
2022(コロナ3年目)	874	1,694	665

（海外派遣促進）

2017年度より始めた本学予算による海外留学チャレンジ奨学金（上限3.55億円）に加え、出入国が可能となった2023年度に海外派遣を促進する施策として、以下の緊急経済支援制度を追加実施。

- ・ポストコロナ海外留学支援奨励金制度

予算：2,250万円（1人3万円支給）／校友会からの支援

全学プログラム：2,289万円、学部・研究科プログラム：3,030万円（1人3万円支給）／本学予算